

がしの木

第2号

2004.9.1

“街で生きる”

理事 大南 英明

2月に講演で高知市を訪ねたとき、昼食を「げんき」というお店でとりました。「げんき」は知的障害者の方々が働いているお店で、当地の官庁街の中にあります。明るく、感じのよいお店で、働いている人たちの接客も気持ちが和み、かなり繁盛しています。

6月には、下馬福祉工房の皆さんが、青鳥養護学校の校門のところでクッキーの出張販売をしているのに偶然出会いました。クッキーをいく袋か買いましたが、「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」という対応が自然にできて、感心しました。

街の中で、大勢の人々と接しながら働くことは大切であり、このような機会がもっとももっと増えることを願っています。

青鳥養護学校卒業生の“あおきとおる”さんが、“おむすびとおに”と言う絵本を出版（らくだ出版）していることはご存知の事と思います。この絵本は、鬼が怖くなく、悪人でもないことなどにより、幼児にとっても人気があります。

石神井養護学校卒業生の岡田美佳さんは、“ししゅう画”を得意とし、いくつもの作品を仕上げています。根気のいる“ししゅう”で温かい感じを出している作品は好評です。

このように働くこととともに、特技を活かした活動が多くの人々に認められることは、とても嬉しいことです。

国立大学法人、独立行政法人など、かつては“国”が直接管轄していた機関が“法人化”され、“民”へ移っています。

“せたがや櫛の木会”の事業について他区市の親の会の方々から質問を受けることがあります。「どのような経緯で区の事業を委託されるようになったのですか」「資金はどのくらい必要なのですか」などなど、事業の展開に注目が集まっています。“せたがや櫛の木会”を支えている沢山の方々、応援をして下さる多くの方々の期待に応えられる運営を続けられることを願っています。

(帝京大学教授、元都立青鳥養護学校校長)

社会福祉法人 せたがや櫛の木会

《基本理念》 社会福祉法人せたがや櫛の木会は、

1. 利用者の人権を尊重し、利用者との信頼関係を構築する。
2. 利用者の主体性を尊重しながら、利用者の自立生活と社会参加を支援する。
3. 利用者が地域社会の構成員である事を認識し、利用者の支援を通して地域福祉の推進に寄与していく。

下馬クッキー・美味しさの秘訣

「今日は何を作りますか？」9:30。キャップをかぶった白衣姿のミニパティシエ達がそろいます。「まず、サブレの生地とマドレーヌを作ります」。その一声をうけてさっと準備にとりかかります。

サブレの生地作りで手際の良さピカイチのAさん。「薄力粉100グラム。砂糖は400グラム。・・・」。数字に強くあつという間に材料を計量します。次に控えるのは職人肌のBさん。真剣な顔つきで粉や砂糖をふるいます。お菓子作りではいろいろな種類のふるいがあります。材料をみて、それに適したふるいを選ぶのもBさんの仕事です。ミキシングが終わったら丁寧に粉をあわせませす。「さあ、やるぞー」と腕まくりをするCさん。結構な力仕事なので男性の力が頼りになります。

こちらはマドレーヌ作り。「私、マドレーヌ絞りのプロになるの。見ててね。がんばるから」。そうボランティアさんに話し掛けるDさん。

「あら、これはぴったり34グラムよ。うまいことしぼるじゃない」。マドレーヌの調整をしながら仲間に気持ちよく声をかけるのはクッキー班では一番の年長者Eさん。活気あふれる厨房から毎日、クッキーのおいしい香りが工房に広がっていきます。

「つまみ食いはしません。試食はOKです」。そうつぶやき、ハイペースで袋詰めするFさん。お客さんにおいしいクッキーを届けるためには試食も大事な仕事です。見栄えも味のうち、きれいに丁寧に袋詰めをしてシールを貼ってくれるGさん。

このシール、皆さんはもうご覧になっていただけただしょうか？下馬オリジナルのシールです。ちょっとユニークなこの印をみて下馬のクッキーだと気づいてもらえたらうれしいです。

職員も含めてクッキー作りは初心者ばかりでし

たが、じっくり時間をかけて工程を一つずつ覚えてきました。

これだけは私の得意なことにする、プロになりたい、そんな思いを抱きながら取り組んでいます。それぞれが自分のできること、得意なことを分担し合って、1つ1つのクッキーを作っています。そんな下馬のクッキーだからこそ美味しいと自負しています。一度御賞味くださいませ。



たが、じっくり時間をかけて工程を一つずつ覚えてきました。これだけは私の得意なことにする、プロになりたい、そんな思いを抱きながら取り組んでいます。それぞれが自分のできること、得意なことを分担し合って、1つ1つのクッキーを作っています。そんな下馬のクッキーだからこそ美味しいと自負しています。一度御賞味くださいませ。

息子と私と「櫛の木会」

吉原節子（櫛の木会ヘルパー）

昨年、息子の嘉伸がホノルルマラソンを走りたいと言うのを叶えたくて「櫛の木会」に相談したところ、ガイドヘルパーの中尾さんを紹介してくれました。中尾さんは快くトレーニングを引き受けてくれました。そして2月よりジョギングを始めました。昨年の12月にホノルルマラソンに出ようと話をした時「まだ、42.195kmを走れる自信がないので、もう1年練習をしたい。お母さんが行ってホノルルの下見をしてきて」と言われ、私一人で行ってきました。そして、12月17日に東京に帰ってきた日、嘉伸は帰らぬ人になっていました。走らなくても一緒にハワイの下見に連れて行けば良かったと後悔しました。

中尾さんも嘉伸の希望であるホノルルマラソンを走らせてあげられなくなり残念に思っていることと思います。本当に一生懸命に指導していただき、ありがとうございました。中尾さんのような人を個人的に探すのは大変です。櫛の木会に相談して良かった。息子は少しでもホノルルへと楽しく頑張っていましたから・・・。

私は現在「櫛の木会」のヘルパーとして活動しています。ガイドヘルパーを始めた理由は、嘉伸が『中尾さんと同じガイドヘルパーを下さい』と生前言っていたからです。すればではなく『下さい』だったので。

私が特に何かできるという訳ではありません。利用者の方の役に立てばという思いだけですが、それ以上に私は利用者の方から元気をもらっています。明日への活力でもあります。



え

世田谷区立下馬福祉工房

ヘルパーステーション榎の木

世田谷区立千歳台福祉園

各所からの『声』を集めました。

何か叶えたい夢があったら、榎の木会に相談してみてください。道が開けるかもしれません。

今年の12月にホノルルマラソンを走ります。きっと嘉伸も一緒に走ってくれると思います。皆さんも応援して下さい。

● 嘉さんのこと

中尾 壮一 (榎の木会ヘルパー)

嘉さんに初めて会ったのは昨年(H15年)2月のこと。「ホノルルマラソンを完走したいんです」と緊張気味に口にした彼の眼差しはとても力強く、純粹なものでした。

12月の本番に向けたトレーニングは週に1、2回。水泳により基礎体力のあった嘉さんは順調に走る距離を延ばしてゆきました。3月からは僕のランニング仲間が集まる東京体育館での練習会にも参加。素直な性格とユーモア精神により、彼はたちまち皆の人気者となりました。

嘉さんの頑張る姿に触発されたのか、4月からはお母様の節子さんも一緒に走るようになりました。そして8月には2人とも30kmを続けて走れるまでに力がついたので、9月に入って彼が足を故障してしまっただけでもあり、ホノルル行きは平成16年に延期することになりました。

まさか嘉さんが旅立ってしまうとは夢にも思いませんでした。残念ながら彼の願いは叶いませんでしたが、今年の12月にお母様の節子さんも交えてランニング仲間とでホノルルへ行って来ます。今は天国で自由に走っている嘉さんも、その日ばかりは地上に降りてきて、あの人懐っこい笑顔で僕たちと一緒に走ってくれることでしょう。

笑顔いっぱい千歳台

「おはようございます！」職員のあいさつに笑顔で応えてくれる利用者さんたち。ここから1日の活動が始まります。

活動の中には「音楽」「散策」などの他に「作業」の時間があり、オリジナリティーあふれる作品を作っています。利用者さん一人だけの力で作品を完成させることは難しいことが多いのですが、みんなで力をあわせ、それぞれの役割分担で作品を仕上げます。その過程では、刺繍した生地をベストやポーチなどに加工してくださるボランティアさんの力も加わります。



千歳台オリジナルの作品は他にも、「ビーズス



ラップ」「むしむしクン(左写真)」など、かわいい作品もたくさんあります。

羊毛をゴロゴロ転がし、ボールのように丸める

Aさん。黙々と布に向かい、針を進めるBさん。そんな脇でちょっと休憩するCさん。

細かいことが得意な方もそうでない方も、自分の持っている力をそれぞれ十分に発揮しています。

「創作」の時間などにできる、利用者さん独自の作品も、ご覧のように味のある作品に仕上がっています。作品は写真の他にもたくさんありますが、紙面の都合上紹介できなくて残念です。

ゆとりのある時間の中で生まれた作品たち。そんな作品には利用者さんと職員の笑顔がたくさん入っています。



掲 示 板

◇ 理事会・評議員会の開催

平成 15 年度 理事会 4 回
(H15. 5. 21・10. 24・H16. 1. 29・3. 12)
平成 15 年度 評議員会 3 回
(H15. 5. 21・H16. 1. 29・3. 12)

◆ 新役員・評議員の紹介

・新監事

秋山由美子氏 (3 月 12 日付)
世田谷区在宅サービス部長

・新評議員

阿部春子氏 (3 月 12 日付)
田中初子氏 (3 月 12 日付)
両氏とも施設保護者代表
堀田和子氏 (5 月 21 日付)
大原福祉作業所主任

◇ 檜の木会後援会《かしの木友の会》発足

手をつなぐ親の会の副会長が発起人となって後援会ができました。会員登録をされた方には 10 月初旬に集まっていたいただき、第 1 回の会合をもつ予定です。皆様応援よろしくお願ひします。
<年会費> 個人会員 一口 2,000 円～
法人会員 一口 10,000 円
<払い込み 郵便局口座番号>
00170-7-194862
社会福祉法人せたがや檜の木会 ザ・バザー

◆ 成年後見制度プロジェクト始まる

「世田谷区」と「手をつなぐ親の会」との協働で、「知的障害者成年後見制度利用支援事業」が始まりました。檜の木会も親の会と連携しながら、事業に関わっていきます。

◇ ガイドヘルパー養成研修始まる

平成 16 年 2 月に始まった「檜の木会」の移動介護従業者養成研修事業（ガイドヘルパーの養成）の今年度の第 1 回研修が 8 月 28 日（土）・29 日（日）に実施されました。10 月から新しいヘルパーが動き始めます。

◆ 千歳台福祉園のおまつり

9 月 18 日（土）に秋桜（こすもす）祭を開催します。和太鼓の演奏やお楽しみがいっぱい。お手伝いをしてくださる方を募集中です。

03-3789-9801 担当職員 田倉・古川まで
※ 平日の活動にもボランティアさんを募集しています。

◇ 下馬クッキー販売拠点拡大

東京の新名所、お台場近くの大江戸温泉横にオープンした「お台場マルシェ世田谷」に下馬クッキーが進出。好評をいただいています。

◆ 寄贈 感謝しています

株式会社たちばな様より下馬福祉工房へ
冷蔵庫付調理台 2 台、大理石調理板 2 枚、
他調理器具。

○ 編集後記

アテネオリンピックで大いに盛り上がった夏でしたが、下馬福祉工房では、全日本女子バレーボールチームに下馬特製『バレーボールサブレ』を贈って激励しました。お礼状を頂いてみんな大感激でした。

4 年後の北京オリンピックの頃の檜の木はどれ位大きくなっているでしょうか。知的障害者の地域での生活がより豊かになるよう事業を展開していきたいと心から思っています。

かしの木

第 2 号 2004.9.1 発行

発行所：社会福祉法人 せたがや檜の木会

〒155-0033 東京都世田谷区代田 1-29-5

TEL 03-5481-1010 FAX 03-5787-4051

メールアドレス setagaya-kasinokikai@poppy.ocn.ne.jp

理事長：鈴木昭雄

編集委員：伊能亮、上原明子、藤井章子、吉田快永

ヘルパーステーション檜の木：

TEL 03-5787-4050 FAX 03-5787-4051

世田谷区立千歳台福祉園：

TEL 03-3789-9801 FAX 03-3789-9802

世田谷区立下馬福祉工房：

TEL 03-5712-5103 FAX 03-3410-3812